

(別紙様式3)

平成30年 3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都小平市たかの台2番1号
管理機関名 学校法人 創価学園
代表者名 理事長 原田 光治 印

平成29年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成29年 6月 1日(契約締結日)～平成30年 3月31日

2 指定校名

学校名 関西創価高等学校
学校長名 中西 均

3 研究開発名

TRY 人(じん)の郷・交野から
平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム

4 研究開発概要

関西創価高校がSGHを通して生徒に身につけさせたい力は、国連の提起する地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」である。Active Learningの土台の上に、全校生徒を対象とした「環境・開発・人権・平和」の4分野について学ぶ探究型総合学習GRIT(Global Research and Inquiry Time)やGlobal Citizenship Seminar、希望者を対象とした知的好奇心を高揚させる高大連携プログラムのUP(University Partnership)Class、希望者から選抜された生徒がオールイングリッシュで徹底した探究を行うLC(Learning Cluster)で、確かな知識と広い教養の涵養を目指す「世界市民教育」の教育課程を高大連携して研究開発する。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

Field Work を一般公募で募集し行った。特に「平和」をテーマに核廃絶について探究活動を行った広島 FW では、本校の所在する交野市の黒田市長と平和教育に関する「語る会」を開催。平和首長会議に参加する交野市の取り組みを取材した。今後、交野市で行っている平和教育や核廃絶の取り組みについて、市内の中高が交流して平和学習、「中高生による核廃絶署名」などを推進していくことが確認された。

○SOKA Progress Class については、University Partnership (通称 UP)Class を開設し、大学などから講師を招き地球的課題の基礎講座を開催した。Advanced English & Math Class は継続して実施。どの講座も生徒から高い評価を得た。

○Learning Cluster については、高校 2,3 年生より 25 名を選抜し、Field Work in Tokyo、Field Work in America を実施。年間を通して英語での探究が進み、高校生による平和への提言「Peace Proposal」を完成させた。本年度は「核廃絶」「気候変動」をテーマに探究活動を行った。

○Active Learning については、校内で研究授業ウィークを 2 回開催し、お互いの授業内容の研鑽に努めた。GRIT の内容を教科横断でさらに深めるための各教科での研修会が 8 月に行われた。国語科では高 3 GRIT での論文作成を踏まえ、希望する教員を対象に、教科を超えて「論文指導法」のワークショップ研修会を行い、社会科では GRIT の内容を、新教育課程を踏まえて社会科のどの授業で展開するかについて、教科研修会を行った。全教員を対象に、本校で進める GRIT の四分野の一つである「人権」について、弁護士を招いての「人権研修」を行った。様々な取り組みの結果、SGH に繋がる授業改善がさらに推進された。また、「2020 年入試への備え～新しい授業を考える～」と題して、河合塾・河合文化教育研究所から成田秀夫氏を招いて研修会を行った。

○Newspaper in Education については、年間通して各クラスで取り組み、コンクールでも多くの入賞者が出た。本校での取り組みを、推進した教員の記事が、読売・朝日・産経新聞に掲載された。

○Feel Japan Program については、ほぼ例年通りの計画通で進んだ。

7 目標の進捗状況、成果、評価

○SGH 3 年目となり、GRIT のカリキュラムの流れを精査し、3 年間で完成する内容が完成した。1 年次は「グローバルイシューとの出会い」をテーマに、知識のインプットとディスカッションを中心としたプログラム、2 年次は「グローバルイシューとの戦い」をテーマに、「環境・開発・人権・平和」の 4 分野からトピックをチームで選んで探究活動を行い、それぞれのチームが大学教授に探究成果と提言を発表、3 年次は「世界を一つにする力」をテーマに、合意形成の力を培った。その集大成として、3 年生全員、92ヶ国で取り組んだ模擬国連では「ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築」について総会を開催。アメリカ FW では、採択された決議を元国連事務次長のチョウドリ大使に直接提出。その模様は全校生徒にライブ中継され、チョウドリ大使からのアドバイスも全校生徒で共有された。本年は高校 3 年生対象に、大学教員を招いての「アカデミック・ライティング講座」を 3 回行い、全員が探究したことを論文にまとめ、英語サマリーとして発信した。論文作成については現代文の授業で行い、完成した論文を元に、英語の授業で英語サマリーを作成した。全教員の 46% が自分の教科授業で GRIT の内容を補足するなど、教科横断での取り組みが進んだ。

○GRIT を全校生徒対象に全教員で取り組んだため、生徒も教師も GRIT で行われている Active Learning の様々な手法や効果を熟知している。その為、全教科に渡ってストレスなく Active Learning の様々な手法が活用され、主体的で対話的な深い学びが進展した。

○本年より全校生徒にタブレットが貸与されたため、ICT を活用した Active Learning や協働作業が飛躍的に進んだ。全教員の 97% の教員が ICT を活用する授業や学級経営を行ったため、教師も生徒も飛躍的に ICT に対する知識や技術が進展した。

○高 3 アンケートでは「世界の平和に貢献したいと思う」が 88%、「他人のために献身的に働こうとする奉仕の気持ちをもてるようになった」が 87%、「困難なことにぶつかった時に解決法を探そうとする力が向上した」が 81% と高い数字を示した。

考えや行動が変わったきっかけとして、生徒が GRIT による取り組みをあげ、その理由として「世界で苦しんでいる人がいる以上、他人事と思うのではなく、私がやらなくてはならない」「多様性を認める心が芽生えた」「とてつもなく難しい問題だという認識が大きくなった。でも諦めない!」「協力すれば道は開けることを知った」などと答え、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」につながる、多くのグローバルリーダーとしての心を育んだと考えられる。

○生徒の意識の変容は各種のコンクールや大会にも表れた。Newspaper in Education では大阪優秀賞、JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストでは関西国際所長賞と特別学校賞を受賞するなど、多くの生徒が自主的に参加活躍し、多数の受賞者を輩出した。

○米国ミドルベリー大学院モントレイ校大量破壊兵器不拡散研究所での「日米露の高校生による核不拡散教育会議」(CIF) に 2 名が参加、高い評価を受けた。

○Learning Cluster については、Field Work in America において元国連事務次長のチョウドリ大使とのセッションや、核時代平和財団のデビッド・クリーガー博士とのセッション、南カルフォルニア大学や UCLA での教授とのセッション、シュタイナー教育のウォルドルフ学校の生徒との交流など充実したものとなった。

○University Partnership Class を受講した生徒は、「世界で起こっている様々な問題への関心が高まったと感じますか」との問いに、100% の生徒が「関心が高まった」と答え、「自分自身が成長した。視野が広がったと感じる」との問いには、生徒の 96% が「感じる」と答えるなど大きな成果を上げた。

○「海外で通用する語学力は必要であると思いますか」の質問に 93% の生徒が「必要」と答え、語学に対する意欲が大きく高まった。それを受け、英検の受験者が全校生徒の約半数を超え、その結果、SGH 初年度(2015 年度)と比較すると 1 級が 1 名から 8 名、準 1 級が 10 名から 48 名に、2 級が 175 名から 387 名へと大きく飛躍した。

○第 10 回「漢語橋」世界中高生中国語コンテストにおいて、2 年生の生徒が最優秀賞を受賞し、国際大会へ参加した。

○「世界津波の日」高校サミット in 沖縄に 3 名参加。日本を含む世界 26 カ国、255 名の生徒とともに調査を行い、自然災害に対する知識を深め、アクションプランのプレゼンテーションを行った。

○世界に興味を持ち、多くの生徒が海外に旅立った。世界大会ならびに SGH としてのフィールドワークで 25 名、個人留学で 30 名、合計 55 名がこの 1 年間で海外に実際に

足を運び探究活動を行った。

○GRITの取り組みについて、教員に対するアンケートで「本校のGRITプログラムは、国連が提起する地球的課題の探究に取り組む内容になっていますか」の問いは、昨年に引き続き100%の教員が「よくできている」「たいへんによくできている」と答え、「SGHの諸活動は、自分の授業や生徒に対する指導法・内容に影響を与えましたか」の問いには、「影響を与えた」と答える教員が昨年の81%から97%に向上するなど、さらに教師の意識改革が進んだ。アンケートでは「学校が変わった」「生徒も教師も変わった」「教員全員での取り組みで熱気があった」など、教師が一丸となって取り組み、さらに生徒とともに成長することに対する感動の声がたくさん上がった。

○運営指導委員会を3回開催し、運営指導委員からは「生徒の心の変容や、行動の変容が確認できた」「昨年に比べてもさらに大きく発展している」とのお言葉をいただいた。

○本年度よりユネスコスクールにも認定され、ユネスコスクールのネットワークを活かして、本校の取り組みを地域や世界へ広げていきたい。

○IB(国際バカロレア)についても多くの教員が研修会に参加するなど、教員の意識の向上や・カリキュラム研究が進んでいる。

○高校3年生の模擬国連では、大学院生TAによるアドバイスやJICA関西によるアドバイスなど、国内にいても世界を感じる取り組みができた。

<添付資料>目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

○GRIT授業の満足度は上がっているが、全員を対象としているため、さらに満足度を上げる必要がある。あくまでも100%の生徒がGRITを学ぶことに意義を感じ、積極的に取り組めるよう、内容の精査と時間配分の工夫をさらに行う。生徒の変容にこだわり、変容の要因となる心の変化にまでこだわるプログラムとしたい。

○SGHプログラムを柱として、生徒が持った興味・関心をさらに深めるために、先生方の協力で、各教科においてのGRIT内容を補足することができた。さらに学びを深めるため、今度はその内容や時期を精査しGRITの教科横断での取り組みを広げていきたい。(仮称GRIT地理、GRIT保健など)

○生徒が学んで感じた、さまざまな興味関心を、生徒たち自身は時にはクリティカルに考え、時にはロジカルに考えてまとめ、発表できるプログラムとして、「アカデミックライティング講座」を行ったが、さらに研究開発に着手したい。(言語技術等)

○学びの部分での探究や、知識は深まったが、実際に地域に参加して取り組むプログラムや、社会で体験するプログラムが弱いと感じる。本校生徒はクラブ活動の参加率が90%であり、学校の諸行事などの活動も盛んなため、活動時間の制約があるのも課題である。生徒の負担を少なく、なおかつ多くの生徒が積極的に活動できるプログラムの開発を目指す。

○今年は交野市長との語る会や教育委員会と生徒の交流が進んだ。来年度は交野市の高校、中学を巻き込んだプログラムを推進し、ユネスコスクールとしてのネットワークも活用し、地域から発信するプログラムを開発する。

【担当者】

担当課	経理募金課	TEL	072-891-0011(代)
氏名	富田 伸彦	FAX	072-891-0015
職名	主任	e-mail	tomita@soka.ed.jp